

岡山県青年会会報

発行者 岡山県青年会
編集 公益財団法人備中館

岡山県青年会学生幹事長挨拶

学生幹事長 山本誠一朗



現在のところ、東京には精義塾・備中

館・育英会東京寮・鶴山館の四寮が存在し、互いに切磋琢磨しつつ、それぞれの大学生活を謳歌しております。私自身は鶴山館に所属しておりますが、岡山県青年会を通じて球技大会・懇親会・青年会総会など多彩な行事を他の寮の方々と経験し、そこから様々なことを学ばせていただきました。この場をお借りしまして、そのような貴重な機会を提供・支援して下さる郷土の先輩方に感謝させていただきたいと思っております。

さて、昨今の学生寮を取り巻く環境に目を転じてみますと、学生の目より見ても非常に厳しいものであるように感じられます。そもそも入寮を希望する学生の数が全体として減少していることに加

え、寮の内外よりその伝統的文化に対する様々な圧力が感じられるようになってきました。全ての問題に通底するのは、個人主義が徹底される中で共同して目標を追求することへの倦怠が、若者を中心にして世間全体に蔓延しているのではないかと懸念です。そのような状況下で、私たちは何を守り、何を変えていくのか。岡山県の四寮に限らず全ての自治寮が、その問いに対して何らかの答えを出し続けていかなければいけない時代となっているのかもしれない。

また、岡山県青年会として、学生会員の裾野を広げていくことも求められているように感じられます。形式的な要件としては、岡山県に関わりのある学生は全員青年会への参加資格を有していることになっていて一方で、実態としては四寮の学生しかその存在すら知らないということが指摘されています。青年会のさらなる発展を考えますと、漸次的にならざるを得ないとしても寮生以外の学生へも活動に参加してもらえよう、学生からもアプローチをしていくことが求められるでしょう。そうした議論や活動も今後行っていければ、と考えております。最後に、私の所属する鶴山館の話を少しさせていただきますと、現在、鶴山館

では地域交流に重点的に取り組んでおります。私たちは岡山と東京という二つの地域に支えてもらって生活をしていきます。そこで、郷土の先輩方の期待に応えられるように努力する一方で、生活の拠点である地域に対してどのように貢献できるかを寮生全員で議論し、寮祭等の様々な形でそれを実現できれば、と考えております。

以上、岡山県青年会ならびに鶴山館に所属する学生としての思うところを一言呵成に書き上げさせていただきましたが、今後とも諸先輩方の助言を受けつつ、学生の特権でもある無為な思索を他の寮生と共に深めていければ幸いです。

新入生と卒業生の状況

平成二十六年三月には、思い出の詰まった学生寮から23人の学生が巣立って行きました。一人ひとりが、学生寮で過ごし学んだことを活かして、更なる成長を遂げることを祈っています。

四月には、新たな学生が岡山から加わり、平成二十六年十月現在、四つの学生寮で生活している学生は108人となっております。

異なる価値観を持った学生達が相互の理解を深め、様々な困難や喜びを体験することができるようにも寮ならではの多くの友人と交わり、自己研鑽の場として活用されることを期待します。

■平成25年度 卒業生の状況■

	首都圏	岡山県	その他の地域	計
岡山県育英会東京寮	4人	2人	3人	9人
鶴山館	6人	—	—	6人
精義塾	5人	—	—	5人
備中館	1人	—	2人	3人
合計	16人	2人	5人	23人

■平成26年度 在寮生の状況（平成26年10月1日現在）■

	1年	2年	3年	4年	大学院	計
岡山県育英会東京寮	15人	7人	7人	10人	6人	45人
鶴山館	6人	5人	11人	6人	—	28人
精義塾	8人	3人	5人	4人	—	20人
備中館	5人	2人	2人	5人	1人	15人
合計	34人	17人	25人	25人	7人	108人



平成25年度 岡山県青年会総会

平成25年12月2日(月)の夕刻、都道府県会館(千代田区平河町)において、各界で御活躍される郷土岡山県出身の諸先輩方にも多数お集まりいただき、岡山県青年会総会を開催しました。

総会は宮原耕治会長(日本郵船(株)代表取締役会長)の挨拶で始まり、安達大輔学生幹事長の挨拶、出席者の紹介、総会議事(事業報告、会計報告など)を行い、全ての議事が承認されました。

引き続き行われた講演会では、「福島原発事故調査委員会に参画して」という題で、淵上正朗(株)小松製作所顧問、工学博士から、御講演をいただきました。

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震と併発した津波で、東京電力福島第一原子力発電所の全交流電源が失われ、原子炉ならびに使用済み燃料プールが冷却不能となり、炉心が溶融し、放射性物質がサイト外へ飛散するなど過酷事故が発生しました。

政府・福島原発事故調査委員会に技術顧問として参画した淵上氏が、事故前の原子炉の運転状況や安全対策での問題点などを踏まえたうえで、独自の視点からみた事故の真相について解説していただきました。

今後の日本社会にとどまらず、世界へも大きな影響を及ぼすと思われるこの大

事故の真相と原因の背景について、集まった学生は皆真剣に聞いていました。

その後、行われた懇親会では、隅田憲平副会長(NPO法人東京シティガイドクラブ理事長)の挨拶の後、木畑洋一副会長(成城大学教授)の発声で乾杯を行い、出席いただいた国会議員の先生方から激励していただいたり、学生から各寮の近況報告を行うなど、食事を挟みながら、先輩方や同輩達と歓談の輪を広げ、親睦や交流を深めました。最後に岡崎助一副会長(公財)日本体育協会専務理事)による中締めをもって、盛況のうち総会は終了しました。

平成26年度も多くの方々に御参加いただけるよう、12月2日の総会開催に向けて、学生幹事一同尽力したいと思います。今後とも、一層の青年会発展のため、皆様からの御指導と御支援をお願いいたします。

アンテナショップ
鳥取県×岡山県



とっとり・おかやま新橋館
東京都港区新橋 1-11-7
新橋センタープレイス 1・2階
営業時間 1F 10:00 ~ 22:00
2F 11:00 ~ 23:00



(株)小松製作所淵上顧問、工学博士による講演会



宮原会長挨拶



懇親会の様子



総会の様子

近況報告 岡山県育英会東京寮

こんにちは、東京寮2年の福田です。私が岡山から東京へ移って、はや一年。本当に早いもので、もう新1年生が入ってきました。今年の1年生は、現在の2・3年生の合計人数を超えています。こんなに多くの新入生が入った年は久しぶりで、寮全体が大喜び。おかげで今年の行事は昨年より良い盛り上がりを見せました。新入寮生の中には1年生であるにも関わらず、先輩にコールを振れる者も居て驚きです。

また、先日行われた山手線一周では体力・精神力共に1年生の方があるという印象を受けました。辛く苦しいが、最後に走り切った者のみが大きな達成感を得ることができ、逆を言うと走り切った者にしか分からない苦痛と喜びがあるのがこの行事です。今年の山手線一周は雨の中のスタートで、疲労は前年の比ではありませんでした。昨年は聞こえてこなかった「帰りたい」という言葉が聞こえてくるほど。上級生にとってもそれは酷い苦痛。しかし構わず続行。それには理由があったと思われ。途中の道が苦しいほど、それを達成した後の喜びが大

きいことを先輩方は知っていたのです。

今年の山手線一周はとても辛く、その甲斐あって寮の団結や友情も一層深まりました。

この行事を通して、1年生が寮に馴染むだけでなく、在校生同士の友情もさらに深まりました。縦の繋がり、横の繋がりどちらも強固なものとなっていくのが、寮の行事の特性だと思います。今年を合わせて残り3年という短い寮生活、大切にかつ存分に楽しんでいきたいと思っています。

2年生 福田博之



近況報告 鶴山館

はじめまして。わたくし私立岡山高校出身、現在、国際基督教大学教養学部アーツサイエンス学科1年在籍、黒住忠且と申します。これはいわゆる「学生注目」というもので、しばしば「学注」と略されますが、私が鶴山館に入寮して初めて覚えた文言です。なぜこのような文言を暗記し、しかも大声で発さないとイケないのか。はじめは疑問に思いましたが、代々受け継がれている伝統のひとつだろうと考えました。

新歓で新入生は「学注」をする機会がありました。たいへん緊張しましたが、自分の中に残っていた疑問が解消されたように感じました。「学注」をすることによって、鶴山館の一員として諸先輩方に受け入れていただけたような感覚を覚えました。また同時にこれから鶴山館の一員として規律を守りながらも、先輩方や同期の友人たちと大学卒業後もきつと忘れられない楽しい思い出を作っていくことになるかと考えると気持ちが高揚しました。

今月で入寮してから三ヶ月が経過しています。毎日とても充実した寮生活を送っています。これも「学注」で得たあの感慨が印象深かったからでしょう。寮の行事

にも積極的に携わらせていただいております。たとえば6月に行われたビアガーデンの企画運営委員の一員として働かせていただきました。現在は今秋に行われる予定の寮祭の広報担当として活動しています。これからも今後の鶴山館を支えていけるよう日々頑張りが、寮生活を楽しみたいと思います。

1年生 黒住忠且



近況報告 精義塾

初めまして。精義塾2年の辻貴大と申します。東京理科大学基礎工学部に在籍しており一年目は北海道の長万部キャンパスで、二年目から東京の葛飾キャンパスという制度であったため今年度2年生として入塾させて頂きました。入塾してもうはや四か月であると思うと、いかにこの精義塾での生活が充実したものであるかが分かります。

近況報告といたしましては、5月末に100キロハイクが行われました。道のりは非常に厳しかったのですが見事参加した塾員全員が完歩することができました。

また先日は精義塾の一大行事「夏の仮装旅行」で湘南に行つて来ました。そこにたどり着くまで下りた駅は池袋、原宿、渋谷です。これらの町で熱い注目を浴びながら塾員と歩いた思い出は決して消えることはないでしょう。またこの旅行ではただ塾員で旅行を楽しむという目的だけでなく新入生がいろんな先輩と話す良いきっかけにもなっており、今回の

旅行で塾員の絆はいつそう深まり、実に有意義な2日間となりました。このように精義塾は行事やイベントが絶え間なくある賑やかで塾員は寮生活を通して人生を邁進しております。

2年生 辻貴大



近況報告 備中館

備中館に在籍している2年の國米創と申します。

私が入寮してから早二年が経ちました。そしてこの春、四人の新入生が備中館に入ってきました。彼らも様々な行事や寮生活を通して備中館の空気に馴染んでいております。

また、寮生は自治寮として寮の管理・運営に携わるので、寮生間の意思疎通が非常に重要となります。そのために花見やマラソン大会などの恒例行事の一つ一つが大切なものであると、二年生となって改めて肌で感じます。

現在、備中館には13名在籍しており、様々な個性を持った人が集まっており、日々刺激を受け生活をしています。私がかれまでに接したことのないタイプの人との会話や議論など非常に新鮮で、入寮してから視野が広がったように感じます。そして各々が役割を全うし、ほどよい緊張感を与えてくれています。そんな中、私はスポーツで海外遠征な

どに行き、大変なこともあります。先輩や同期が家族のように支えてくれます。

様々な人が集まるこの備中館においてそれぞれの個性を活かし、寮の運営に活かしていくことは、社会に出てからも大きな財産になっていくと思います。

2年生 國米創



育英会東京寮の先輩から

私が岡山県にて社会人生活が始まってから、早くも4カ月が経とうとしています。桜が至る所で満開になったかと思えば、日差しが強く汗ばむ季節となり、時間の流れの早さを感じます。そして今日、青年会会報誌に掲載させていただくということで、東京寮で過ごした日々を思い出しつつ、在寮生に向けて「私が期待する3つのこと」と題した文章を寄せたいと思います。

一つ目は、岡山の良さを知ることです。東京で暮らしていれば、岡山はいったいどのような県で、有名どころは何かあるのか等、岡山に興味を持ってくれる人と話す機会があります。当初、私は自信を持って答えることができず、「岡山のことを知っているつもり」になっている自分に気が付きました。東京に住んでいるからこそ、もっと岡山のことを知るべきだと思います。

二つ目は、東京の伝統や文化に触れるということです。大学生活では、授業やサークル活動等、忙しい日々を過ごしていることと思いますが、東京でしか見るこのできないような伝統芸能、例えば歌舞伎などにも触れてみてはいかがでしょうか。そこで見て感じた経験は、その後の人生できっと生かされると思います。

三つ目は、東京寮において個性を発揮することです。寮生活では、飲み会を盛り上げる者やスポーツを通してチームを引っ張る者、そして事務的なことを得意として寮全体を支える者まで、必ず何らかの役割があります。私は、寮生一人一人が個性を発揮しあい、お互いに支え合ってほしいと思います。寮での絆や協調性というものはそういう所から築かれるからです。

私が東京寮で暮らした3年と11カ月。決して楽しいことばかりではなく、失敗したり悩んだりしたことも数多くありました。しかし、そうした経験があったからこそ、今も少しずつ前へ進んでいるのだと思います。遠く岡山から、東京寮の学生さんが実りある学生生活を送れるよう心から願っています。

小林博行（平成25年度卒寮）

鶴山館の先輩から

皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成22年入館、つい先日の3月に卒館いたしました藤原でございます。卒館してから4ヶ月を振り返ってみたいと思います。

私は証券会社で「アナリスト」と呼ばれる職業の新米として、上司とマンツーマンで日々修行を重ねております。アナ

リストとは、産業の中で特定の業界を研究し、その産業に属する企業の株価の将来の動きを予測する職業です。詳しいことは省略いたします。私が日々見ている業界は総合電機業界、日本を代表する産業の一つです。私も最初はそう思っていました。これらの企業群は、テレビや冷蔵庫を作っているだけではないのです。発電設備、CTスキャン、半導体、洗濯機、映画、銀行などコンゴロマリットだらけです。日々、知らないことと格闘しつつ、刺激に満ちた世界に非常に満足している次第です。

そして世界は想像以上に狭いということを感じています。私が働く証券会社では、海外と一体一つのチームを形成しており、日常的に海外チームの協力も受けつつ、担当する業界を研究しています。電機業界では、いまや国内だけではなく話をすることができません。例えば、スマートフォンひとつを見ても、液晶ディスプレイはA社、カメラモジュールはB社、フラッシュメモリはC社といったように世界中の様々な部品を組み立てて作られており、たとえメーカーとしては市場を大きく占めるメーカーは少なくても、部品ごとのシェアであれば大きな位置を占める会社も多いのです。ですから、常に「世界の中の日本企業」という

視点を自然と意識するようになります。まだ卒業してすぐのひよっこでも、充実した日々を送ることができています。寮生の皆さんは、まだなにをするか決めていない人、もう進路が決まった人と様々だとは思いますが、ぜひ社会に出るのを恐れずにいたいただきたいです。すぐそこには非常に厳しいですが、楽しい世界もたくさん待っていることと思います。もちろん、学生でしかできないような時間の使い方方で学生生活を満喫することは忘れずに。

藤原毅郎（平成25年度卒寮）

精義塾の先輩から

カタチにはいろいろある。体のカタチ、頭のカタチ、仕事のカタチ、恋愛のカタチ。どんなカタチでもいい。人の周りには無数のカタチが存在する。僕は大学に入ってたくさんカタチを見てきた。自分にとって興味深いカタチ、そうでない形がたくさんあった。中身が詰まったようなカタチがあれば表面だけのカタチもあった。様々なカタチを見て感じ取って自分というカタチを作り上げてきたように思える。そしてそのカタチは今もなお変化し続けている。このようにカタチとは視覚的情報だけで決まるようなものではないらしい。そのものから放出される

すべての情報がカタチをなしているのかもしれない。

精義塾には20人の学生がいる。そしてその20人が同じ釜の飯を食べながら生活し、精義塾というひとつのカタチを形成している。20人も入れば20人分の生活のカタチが存在しそのカタチもバラバラだ。彼らにはこの一つのカタチの中で言葉や行動という媒体を利用し気持ちをつつけ合い、それぞれのカタチを形成してほしいと思っている。

これからは社会で自分のカタチをさらに変化させ、周りの人間を楽しませ、人の行動をデザインする。そんな満足感を得ながら生きていこうと思う。

守屋直記（平成24年度卒塾）

備中館の先輩から

私が備中館を卒業して数カ月が経ちました。こうしてOBとして原稿を依頼され、何を書こうかと頭を悩ませていることを考えると、毎年同じように頭を悩ませていた『しののめ』の原稿執筆が思い出されて、少し複雑な気分です。一方で、それまでは当たり前だった寮での生活から離れて、改めて、寮のありがたさを痛感しています

私は大学を卒業後、証券会社に就職しました。東京での一ヶ月に亘る研修を終

え、今の名古屋支店に配属されました。今では仕事にも慣れ、また先輩や上司、同期の友人にも恵まれて、想像以上に充実した日々を送っています。しかし、配属当初は、名古屋というクセのある土地での営業に気が滅入ることもありました。考えてみれば、これまでの二十数年間の人生は、郷里を同じくする仲間とばかり過ごしてきたように思います。当時は何も気が付いていませんでしたが、同じ田舎に生まれ同じ空気を吸いながら成長してきたという大きな共通項を持った仲間は、東京での学生生活における精神的な支柱だったのかも知れません。

四年間の備中館での生活が私に与えてくれたのは仲間ばかりではありません。自治寮の一員として、時には先輩やOBの方々に怒られながら、時には後輩たちを指導しながら、曲がりなりにも寮を運営していく中で、社会人としての基礎を築くことできたと思います。実際に備中館を離れ、社会人として働いて初めて、そのありがたさや感謝の気持ちを感じる事ができると思います。是非在館生の皆さんには、備中館での残りの日々を、大切に噛みしめながら生活して欲しいと思います。

長田和憲（平成25年度卒館）

事務局からのお知らせ

■新規会員の募集

岡山県青年会の通常会員は、岡山県出身の学生です。男女は問いません。育英会東京寮、鶴山館、精義塾、備中館に入寮している学生以外の方も、岡山県青年会に入会いただけますので、学校や知人等で入会を希望される学生がおられましたら、事務局までご連絡ください。入会金は不要で、学生の方（通常会員）の年会費は無料です。

■特別会員の方へ維持会費（年会費）納入のお願い

学生寮を巣立っていかれた先輩方や、岡山県出身の学生を応援くださっている方に、特別会員になっていただき、岡山県青年会の運営のご支援をいただいています。特別会員の皆様には、青年会の維持会費（年会費）として一口5千円（できれば2口以上お願いいたします）のご支援を今年もよろしくお願いいたします。

事務局連絡先

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10階
岡山県東京事務所内
岡山県青年会事務局
TEL:03-5212-9080
FAX:03-5212-9083
メール:seinenkai@pref.okayama.jp

岡山県	育英会東京寮	〒108-0074 東京都港区高輪3-14-21 TEL:03-3441-3195 【HP】 http://www.okayama-ikueikai.jimusho.jp/ryo01.htm	鶴山館
	精義塾	〒112-0006 東京都文教区小日向1-21-13 TEL:03-3947-6565 【HP】 http://www.seigijuku.org/	
		学生寮の問い合わせ先	
		〒202-0013 東京都西東京市中町5-10-8 TEL:0424-22-5951 【HP】 http://park19.wakwak.com/~kakuzan/	
		〒112-0001 東京都文教区白山4-8-4 TEL:03-3947-1549 【HP】 http://備中館.jp/	